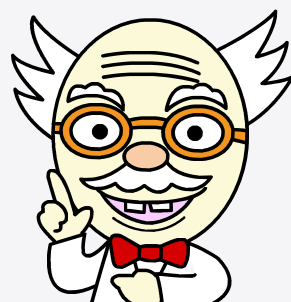


地域津波避難計画 点検マニュアル

想定される条件のもとで
逃げ切れない地域はないか



トラフ博士

津波避難場所、避難経路の
安全性が確認されているか



たいさくくん

実践的な訓練の継続により
避難時間の短縮に取り組んでいるか



ゆうどうくん

高知県防災キャラクター©やなせたかし

平成 25 年 12 月

高知県

目次

はじめに 1

第1章 地域津波避難計画のチェック 3

- ・ 想定される条件のもとで逃げ切れない地域はないか

第2章 津波避難場所・避難経路の安全性のチェック 10

- ・ 安全に避難するために、地域の現状と対策が必要な箇所が把握されているか

第3章 実践的な避難訓練の実施 16

- ・ 実践的な訓練の継続により避難時間の短縮に取り組んでいるか

キャラクター紹介



高知県防災キャラクター©やなせたかし

〈キャラクター作成・提供〉 有限会社やなせスタジオ 〈発行〉 平成 25 年 12 月 初版発行
〈企画・発行〉 高知県 危機管理部 南海地震対策課 〒780-8570 高知市丸ノ内一丁目 2-20
TEL : 088-823-9317 FAX : 088-823-9253 Eメール : 010201@ken.pref.kochi.lg.jp

津波から確実に命を守る方法としては、「迅速に安全な場所に避難する」ということに尽きます。このため、津波の浸水が想定されているすべての地域で、津波から避難する方法を検討し、その結果を地域津波避難計画としてとりまとめてきました。この地域津波避難計画点検マニュアル（以下、「点検マニュアル」という。）は、各地域で作成された計画の妥当性を確認するとともに、計画の実効性をさらに高めることができるように作成したものです。

点検マニュアルは、作成された計画を主に図上で確認するための「地域津波避難計画のチェック」、実際に現地を調査し、安全性の確認を行うための「津波避難場所・避難経路の安全性のチェック」、そして避難訓練を行うための「実践的な避難訓練の実施」で構成しています。

計画は、一度作成したら終わりというものではありません。この点検マニュアルを参考に、計画の見直しを定期的に行うとともに繰り返し訓練を行い、確実に避難することができるよう、実効性を高めていくことが重要です。



■点検マニュアルの活用

点検マニュアルを活用することで、計画の実効性を高めていくために必要な項目を漏れなく検討することができます。

○地域住民（自主防災組織）

- ①避難訓練のポイントが知りたい ⇒ 「実践的な避難訓練の実施」を参考にします。
- ②津波避難場所・避難経路の安全性を確認するポイントが知りたい
⇒ 「津波避難場所・避難経路の安全性のチェック」を参考にします。

○市町村

- ①避難困難地域が残っていないか確認したい ⇒ 「地域津波避難計画のチェック」を参考にします。
- ②津波避難場所の容量が十分か確認したい ⇒ 「地域津波避難計画のチェック」を参考にします。
- ③自主防災組織に訓練のアドバイスをしたい ⇒ 「実践的な避難訓練の実施」を参考にします。

点検マニュアルを活用することによる効果

- ◆計画をチェックする項目や基準が統一されることで、地域による**安全度の差がなくなる**
- ◆避難の確実性を高めていくために必要な項目を確認することができるため、**自主防災組織が取組をはじめやすいことに加え、市町村もアドバイスをしやすくなる**
- ◆点検マニュアルに基づいた点検や訓練を行うことで、活動の**記録が残る**
- ◆過去の記録を確認することで、**PDCA サイクルによる安全性の向上を実感**することができ、**モチベーションのアップ**につながる

■計画の点検に係る県の支援

県では、点検マニュアルに基づく計画の点検が早期に終了し、避難の確実性を高めていくために、次のような支援策を用意しています。（平成 25 年 12 月現在）

- ◆市町村への財政支援：計画の見直しには、津波避難対策推進事業費補助金が活用できます。
- ◆人的支援：津波避難場所・避難経路の安全性の確認には、こうち防災備えちよき隊^{*}の派遣も可能です。

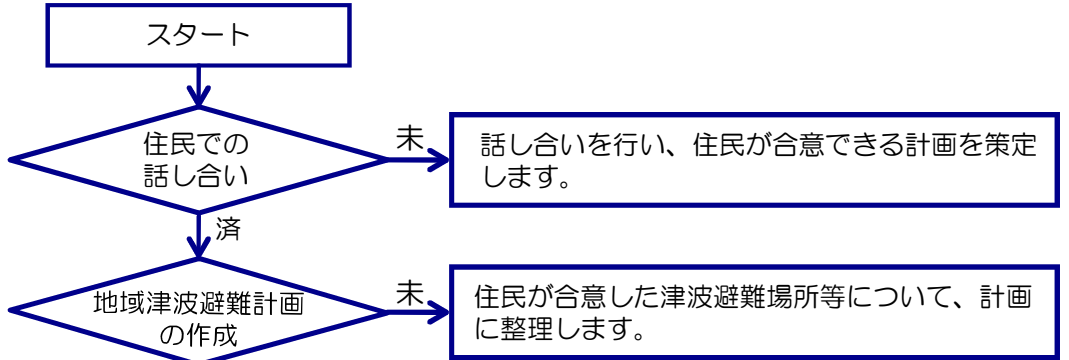
※こうち防災備えちよき隊とは

地域の防災力の底上げを図るために、県が立ち上げた民間の人材（防災士会、県職員OBで組織するNPO、県内大学の学識経験者など）で構成する組織。地域の防災学習会における講師や防災訓練への指導などといった活動を行っています。

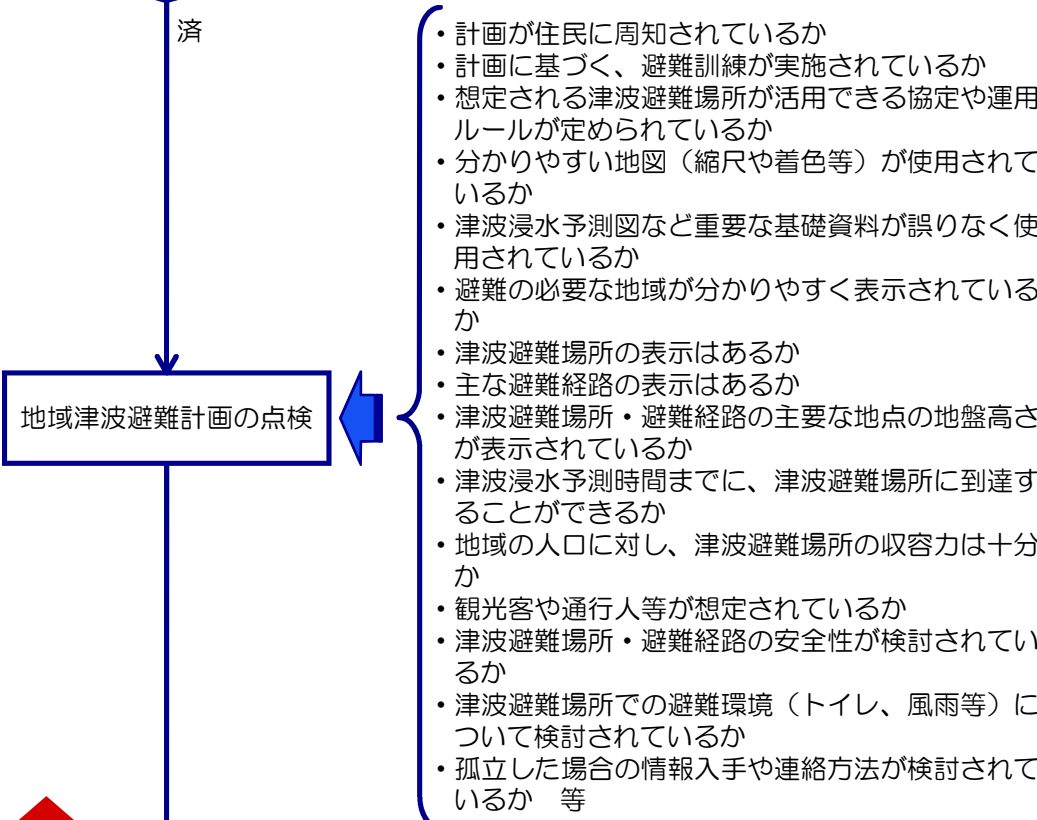
点検マニュアルの活用の流れ

津波避難計画策定指針

高知県津波避難計画策定指針を参考に、地域で津波からの避難についての話し合いを行い、計画を作成します。

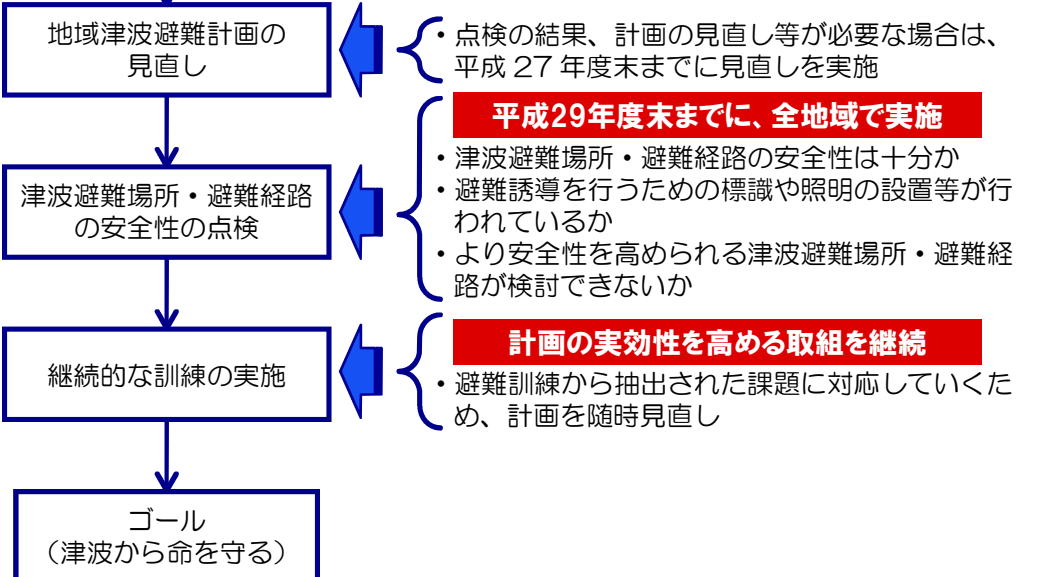


計画で想定された条件のもとで、逃げ切れない人がいないか確認します。さらに、計画が住民に周知されているか、実際に津波避難場所を活用した避難訓練が行われているかなど、避難の確実性を高める取組が行われているかも確認します。



津波避難計画点検マニュアル

平成26年度末までに、全地域で実施
（本年度から順次、県で確認に伺います）



地域住民と行政が協働して、津波避難場所、避難経路を点検します。

安全度を高める取組を進めるとともに、定期的な避難訓練を実施します。

平成29年度末までに、全地域で実施

- 津波避難場所・避難経路の安全性は十分か
- 避難誘導を行うための標識や照明の設置等が行われているか
- より安全性を高められる津波避難場所・避難経路が検討できないか

計画の実効性を高める取組を継続

- 避難訓練から抽出された課題に対応していくため、計画を随時見直し

地域津波避難計画 のチェック

想定された条件のもと
で逃げ切れない地域は
ないか確認しましょう



想定された条件のもとで、逃げ切れない人がいないか

■地域津波避難計画チェックリスト（図上点検編）【記入例】

確認する地域津波避難計画書名	〇〇地域津波避難計画	作成日	平成〇年〇月
自主防災組織名	〇〇自主防災会・〇△自主防災会		
点検者	堀田 郷司	実施日	平成〇年〇月×日（土）

項目	必要な内容	チェック	コメント等
住民の参画	① 地域津波避難計画は住民の参画により策定されたか（回数、参加者数、年齢層等）	○	ワークショップ1回 48名参加（年齢構成は不明であるが、高齢層の参加が多い）
	② 地域津波避難計画を広く住民に説明する機会は設けられているか（回数、ワークショップ参加者以外への説明等）	要検討	説明会を1回実施しているがワークショップ参加人数と同等のため、幅広く情報共有できる取組について検討を要する。
	③ 地域津波避難計画は、住民に配布されているか	×	各公民館に置いている。来年度配布予定
	④ 策定した地域津波避難計画に基づく避難訓練を実施しているか（計画通り避難できるか等の現地確認）	×	今後実施予定
計画書の確認	⑤ 避難対象地域の人口が把握されているか	○	計画地域全体、自主防災組織単位で把握
	⑥ 観光客や通行人等の想定がされているか	○	四国八十八ヶ所札所への観光客等を想定
	⑦ 揺れによる被災状況が想定されているか	○	がけ崩れ、ブロック塀、家屋倒壊、火災等
	⑧ 地域における津波浸水の特性が把握されているか	○	津波浸水予測図・予測時間図（平成24年12月 高知県）から把握
	⑨ 現地調査や地域住民からの情報等により、地域の現状が把握されているか	○	現状の津波避難場所・避難経路、水際構造物、重油貯留施設等の危険物を把握（現地調査写真を添付）
	⑩ 避難の際の移動手段について検討されているか	○	徒歩を原則としている
	⑪ 津波避難場所・避難経路の選定にあたって、住民の意向が反映されているか（住民が集中する経路、使用しない経路等）	○	ワークショップで地域内の意見を集約した
	⑫ 津波浸水予測時間までに、避難場所に到達することができるか	○	別紙 避難困難地域のチェックシート
	⑬ 津波避難場所の広さは、想定人数に対して十分か	○	別紙 避難場所調査書
	⑭ 津波避難場所・避難経路の安全性が検討されているか	○	山崩れ、ブロック塀、屋外放置物（廃船）対策
	⑮ 津波避難場所での避難環境（トイレ、風雨等）について検討されているか	要検討	具体策について要検討
	⑯ 避難誘導、標識や声掛けの仕組みなどが検討されているか	要対策	避難標識の追加設置が必要
	⑰ 夜間に避難するための対策が検討されているか	要対策	ソーラー照明の整備等が今後の課題
	⑱ 孤立した場合の情報入手や連絡方法が検討されているか	×	今後検討予定
津波防災マップの確認	⑲ 要配慮者（避難行動要支援者）の支援が検討されているか	要検討	具体策について要検討
	⑳ 情報伝達方法について検討されているか（住民への伝達方法の多重性、確実性等について）	○	防災行政無線、広報車、自主防災組織との連携等
	㉑ 病院、要配慮者施設、大型商業施設等の津波避難計画を把握しているか	×	地域で情報共有することが望ましい
	㉒ 継続的な避難訓練から抽出された課題を改善していく仕組みがあるか	○	具体策について要検討
	㉓ 分かりやすい表記（縮尺、文字サイズ、着色等）がされているか	要改善	分かりやすい表記（縮尺、文字サイズ、着色等）の検討が必要
	㉔ 津波浸水予測図等重要な基礎資料が最新版を誤りなく使用されているか	○	最新版を誤りなく使用されている
	㉕ 避難の必要な地域が分かりやすく表示されているか	○	無償で利用できる地図を使用 避難経路・避難場所をおかりやすく表示するため、浸水区域を同一色で表示（ワークショップで決定）
	㉖ 基盤地図は何を使用しているか下記より選択 → □航空写真 □都市計画図 □その他（住宅地図等）		
	㉗ 浸水想定はどのように表示をしているか、下記より選択 → □到達時間で着色 □浸水深で着色 □その他（同一色で着色）		
	㉘ 避難場所の表示（名称・マーク等）はあるか	要改善	箇所の識別（名称、番号）、共通マークの使用
㉙ 主な避難経路の表示はあるか	○	ワークショップでの検討を反映	
㉚ 主要な地点（避難場所、交差点等）の地盤高さが表示されているか	○		
㉛ 避難の目印となるランドマークが表示されているか	×	今後改善予定	
㉜ 橋梁や土砂災害等の危険箇所情報が表示されているか	○		
総評	概ね地域の状況が把握されており、適切な計画が策定されている。 今後は、さらに安全度を高めるため、標識やソーラー照明等の整備を検討する他、要配慮者に対する検討を進めることが望ましい。 また、地域避難計画書に基づいた避難訓練の実施等によって、地域全体の避難意識の向上を図る必要がある。		

■チェックするとき準備するもの

- 地域津波避難計画書・津波防災マップ
- 津波避難場所調書（各市町村が事前に記入しておくこと）
- 津波浸水予測図・津波浸水予測時間図 震度分布図・地震継続時間分布図
- 土砂災害危険マップ 液状化マップ
- その他（橋梁台帳、地域人口資料等）

■記入方法

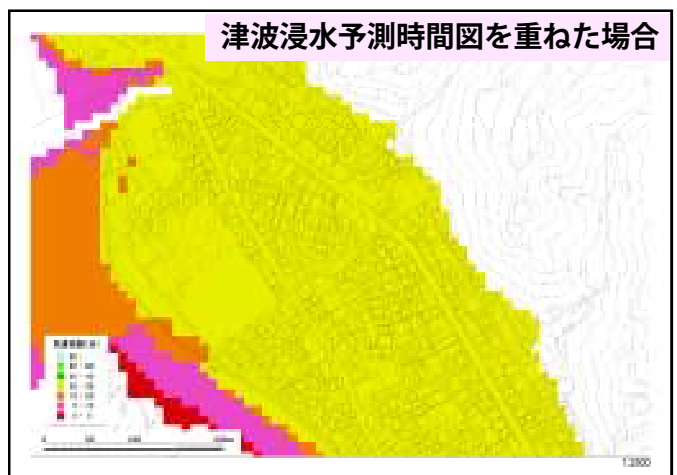
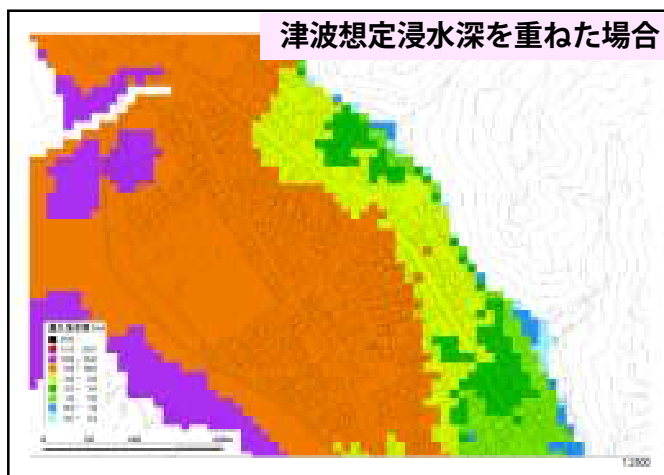
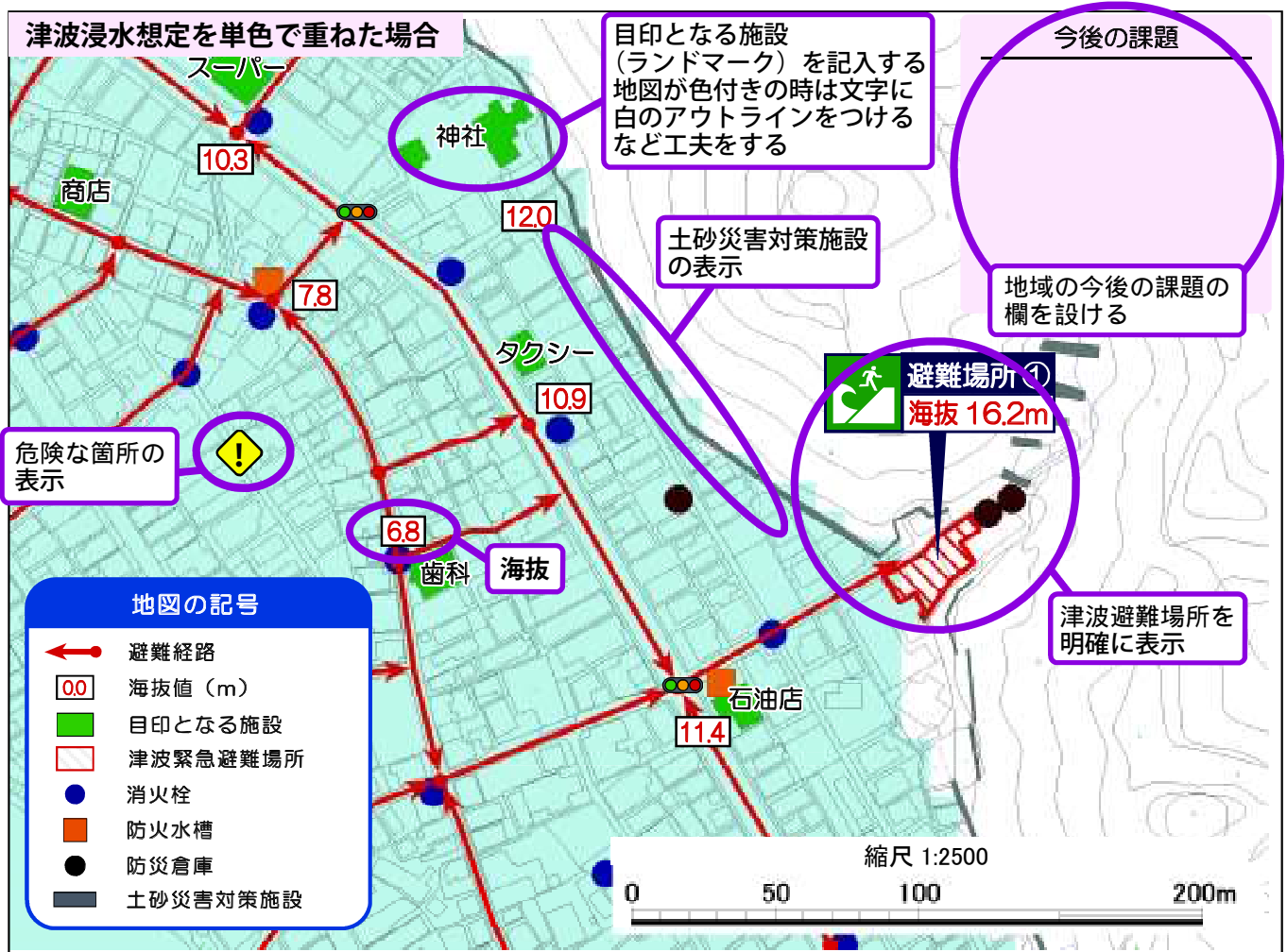
地域津波避難計画書・津波防災マップを見ながら、各項目を確認します

■地域津波避難計画チェックリストの解説

項目	解説
住民の参画	① 計画の策定に住民が参画することは、避難放棄者（あきらめ、油断、おまかせ）をできるだけ減らす観点からも有効である。幅広い年齢層の参加や、参加者数の増加につながる工夫がなされているか。
	④ 参加者が少ない場合は、地域の実情等を踏まえて、様々な自主防災組織の取組事例の紹介等によって津波避難意識の向上につなげる提言を行う。
	⑤ 住宅地や商工業地域等の地域特性を踏まえて、夜間人口、昼間人口等の最大値が把握されているか。
	⑥ 住民以外に観光客等の人口を考慮しているか。考慮していない場合は、津波避難場所のスペースが十分か改めて確認することが必要。
計画書の確認	⑦ 地域内の被災状況が想定されているか。被災により避難困難となるおそれがある場合は、課題点等として記載されているか、対策が検討されているか。
	⑧ 津波の遡上方向、河川への津波遡上、台風等による高波被害を受けやすい場所など、地域の津波特性を把握しているか。襲来する津波の方向や挙動を表したアニメーション（県 HP に公開）の活用も有効である。
	⑨ 現状の津波避難場所、避難経路、橋梁、急傾斜地等の情報を把握しているか。また、それらの情報が状況写真等により共有できるか。
	⑩ 徒歩を原則とするが、やむを得ず自家用車の使用等を想定する場合は、そのリスクや使用ルールが検討されているか。
	⑪ 計画の実効性を高めるために、住民の避難行動の意向が反映されているか。住民意向は、どのような手法（ワークショップ、住民アンケート等）で行われたか。
	⑫ 各ステップで避難困難地域が発生する場合は、その対策の方向性についてアドバイスを行う。
	⑬ 個別の津波避難場所のチェックの他、周辺地域を含めて住民の集中による避難困難が発生することがないか等について、広域的な視点でのチェックも併せて行う。
	⑭ 津波避難場所周辺の危険箇所（急傾斜地、ため池等）と対策工の有無や、避難経路の危険箇所（ブロック塀、古い建物、耐震未対策の橋梁等）が把握され、対策が検討されているか。
	⑮ 津波警報が継続中（6～24 時間程度）、津波警報解除後も津波避難場所から直ちに移動することが困難な場合も想定される。長時間、夜間、寒冷時等を想定した備えが検討されているか。
	⑯ 地域外からの滞在者等の地理に不慣れな避難者が、自力で避難できるような避難誘導看板等の設置等が検討されているか。
	⑰ 夜間の避難速度を向上するための照明、誘導灯の設置、懐中電灯の備え等の対策が検討されているか。
	⑱ 津波警報解除後も津波避難場所から直ちに移動することが困難な場合も想定される。孤立した場合の情報入手や救助要請等の連絡方法が検討されているか。
	⑲ 要配慮者の支援については、「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針」に基づく市町村の取組等が行われているが、名簿を活用した避難支援や安否確認には課題があり、十分浸透していないと考えられる。地域津波避難計画書では、課題認識や取組の現状等が記載されているか。
	⑳ 最大クラスの地震発生時には、広報車等による周知は困難と考えられ、防災行政無線の確実性等について検討されているか。揺れが小さくても大津波が発生する可能性もあることから、伝達の多重性も確保する必要がある。定型の案文通りに読むと危機感が伝わらないため、工夫が必要であることも提言する。
	㉑ 地域津波避難計画書と整合を図る必要がある大規模な施設等がないか。地域内に該当施設がある場合は、施設滞在者の津波避難場所について、地域津波避難計画書に想定人数を記載するなど情報共有することが望ましい。
	㉒ 避難訓練の継続と地域の課題解決に繋がる実践的な訓練内容や関係機関への働きかけ等について具体的に記載されているか。

■津波防災マップ作成ポイント

- 地域ごとの特性を反映する
- 様々な世代の方が見るので、用語、字の大きさ、色相、縮尺等に注意！



津波浸水想定を重ね合わせは、以下の特徴と地域特性等を考慮し、最適な組み合わせを選定する

- ① 単色で表示・・・避難経路、ランドマークなどの浸水域内の情報が多く表示できる
- ② 浸水深で表示・・・できるだけ高い場所へ避難してもらうことを強調する
- ③ 予測時間で表示・・・時間的に余裕が少ない地域において、特に注意を促す
- ④ その他 (①+②+③の組み合わせ)

・・・・・・学校や役所など、主要な地点における想定浸水深、浸水予測時間を数値

■避難困難地域のチェックシート①【記入例】

(収容人数に余裕がある高台避難場所等の場合)

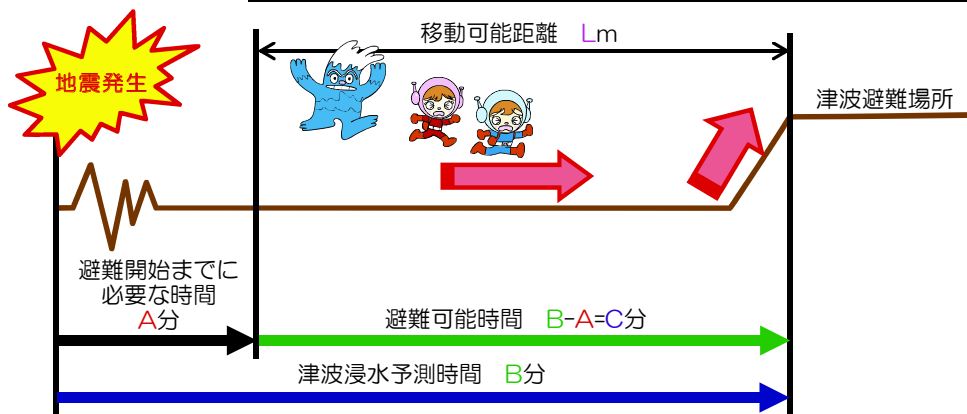
実施日	平成〇〇年〇月〇日(月)
点検者	堀田 郷司

地区名	〇〇地区	津波避難場所名	津波避難場所〇～△
-----	------	---------	-----------

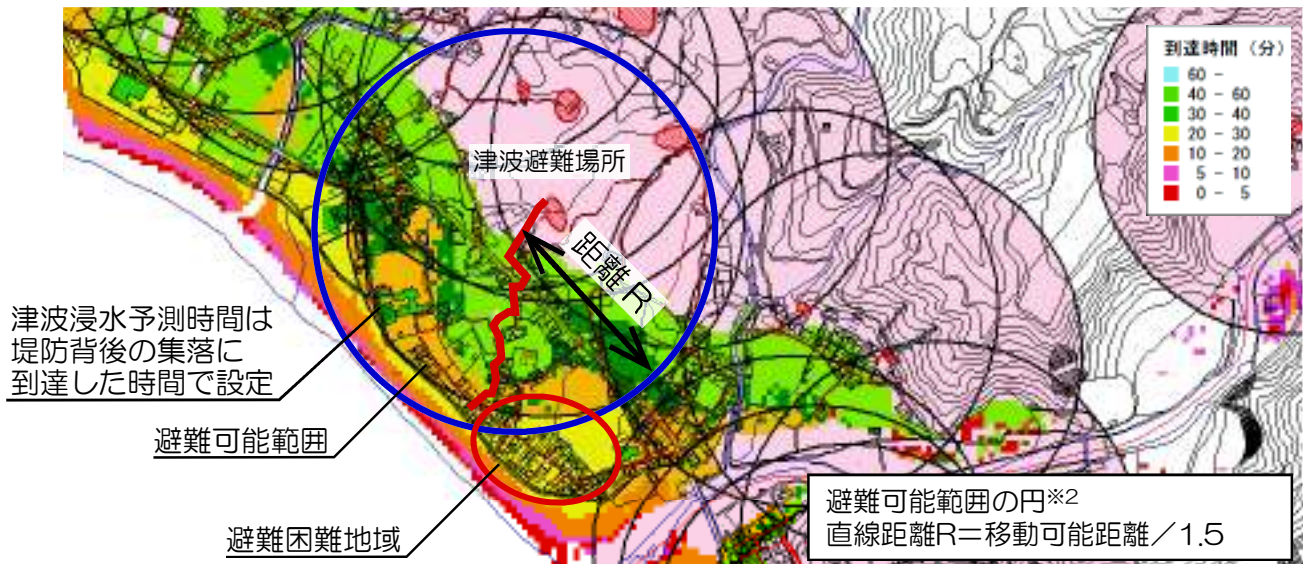
■移動可能範囲の算定

最短時間のとり方*1 (①)

		現在の計画 (日中)	STEP1 日中	STEP2 夜間	STEP3 夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	(5分)	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	(20分)	(20分)	(20分)	(20分)
避難可能時間	C (分) = B-A	(15分)	(15分)	(10分)	(10分)
歩行速度	V (m/秒)	(0.7m/秒)	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C×V×60	(630m)	(630m)	(420m)	(336m)
避難可能範囲の円*2	R (m) = L/1.5	(-)	(420m)	(280m)	(224m)
	評価	(-)	(OK)	(OK)	(OUT)



■避難困難地域のチェック



※1 最短時間のとり方 (①～③のいずれのチェックでも可能)

		読み取り値 (例)	採用値 (例)
①マップ単位 (広域的に設定)	津波浸水予測時間図の 着色からの読み取り	10～20分	10分
②津波避難場所単位 (地区毎に設定)		20～30分	20分
③メッシュ単位 (より詳細な設定)	MAGISからの読み取り	28分	28分

※2 津波避難実態調査による避難距離と直線距離の比

津波を想定した避難路、避難施設の配置及び避難誘導について (第3版) (平成25年4月 国土交通省 都市局)

達成度

現状はSTEP3の想定で逃げ切れないおそれがある。
夜間の歩行速度を向上するための対策について検討を要する。

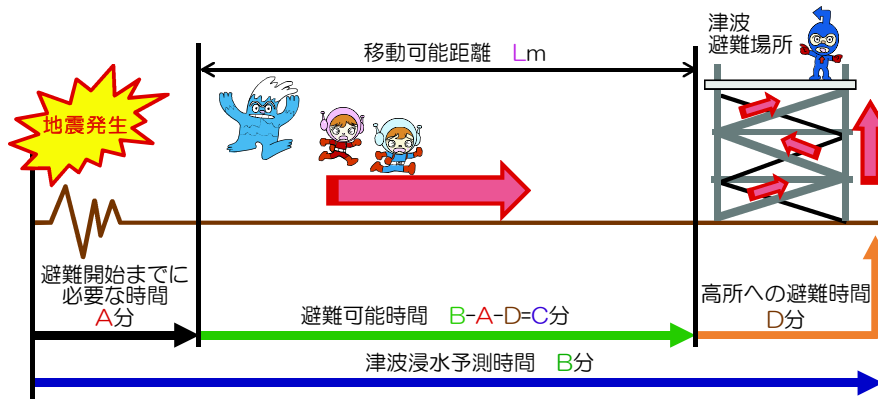
避難困難地域のチェックシート② 【記入例】

(津波避難ビル等の場合)

実施日	平成〇〇年〇月〇日(月)
点検者	堀田 郷司

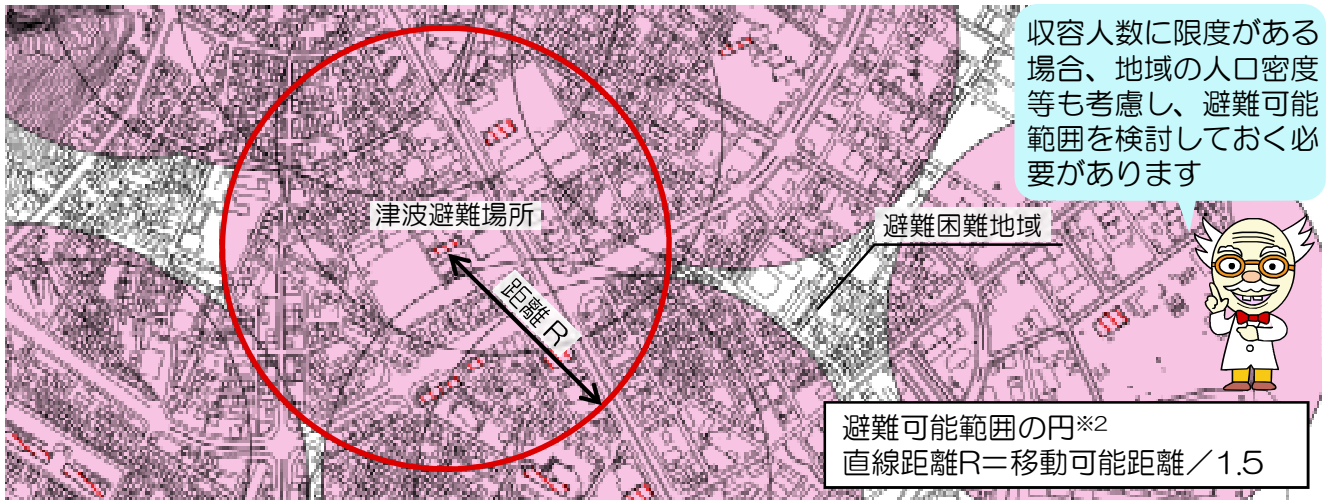
地区名	〇〇地区	津波避難場所名	津波避難場所〇～△
-----	------	---------	-----------

■移動可能範囲の算定 最短時間のとり方※1 (㊦)		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	(5分)	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	(20分)	(20分)	(20分)	(20分)
高所への避難速度	VH (m/秒)	(-)	(0.21m/秒)	(0.21m/秒)	(0.21m/秒)
高所への避難時間	D (分)	(-)	(3分)	(3分)	(3分)
避難可能時間	C (分) = B-A-D	(15分)	(12分)	(7分)	(7分)
歩行速度	V (m/秒)	(0.7m/秒)	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
避難可能距離	L (m) = C×V×60	(630m)	(504m)	(294m)	(235m)
避難可能範囲の円※2	R (m) = L/1.5	(-)	(336m)	(196m)	(157m)
	評価	(-)	(OK)	(OK)	(OUT)



避難困難地域のチェック

各津波避難場所を中心に可能範囲をプロットし、避難困難地域が発生しないかチェック



※1 最短時間のとり方 (①～③のいずれのチェックでも可能)

		読み取り値(例)	採用値(例)
①マップ単位 (広域的に設定)	津波浸水予測時間図の着色からの読み取り	10～20分	10分
②津波避難場所単位 (地区毎に設定)		20～30分	20分
③メッシュ単位 (より詳細な設定)	MAGISからの読み取り	28分	28分

※2 津波避難実態調査による避難距離と直線距離の比

津波を想定した避難路、避難施設の配置及び避難誘導について (第3版) (平成25年4月 国土交通省 都市局)

達成度

現状はSTEP3の想定で逃げ切れないおそれがある。
夜間の歩行速度を向上するための対策について検討を要する。



各市町村で事前の記入をお願いします

津波避難場所調書

■津波避難場所（自然地形の高台）

地区名	条件設定：1人当たりの面積							1 m ² /人
番号	名称	面積 (m ²)	避難場所の海拔 (m)	避難場所近隣の津波高 (T.P.) MAGIS 計測値	想定人数 (人)	避難可能人数 (人)	想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	備考
(例)	津波避難場所①	100	20.3	16	98	100	妥当	〇〇地区：50人
1								
2								
3								
合計								

■津波避難場所（津波避難ビル等の避難施設）

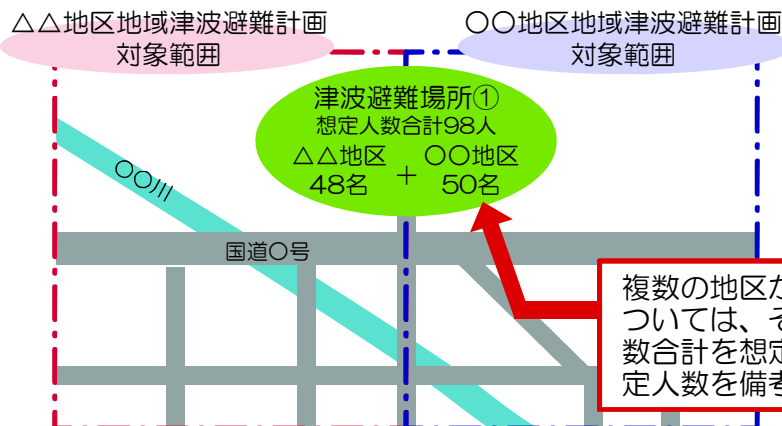
地区名	条件設定：1人当たりの面積							1 m ² /人		
番号	名称	面積 (m ²)	建物階数 (階)	避難場所近隣の津波高 (T.P.) MAGIS 計測値	想定人数 (人)	避難可能人数 (人)	津波避難ビル指定	耐震性	想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	備考 (避難可能場所等)
(例)	〇〇津波避難ビル①	200	4	11	300	200	有	有	要検討	屋上に避難
1										
2										
3										
合計										

■津波避難場所（津波避難タワー等の避難施設）

地区名	条件設定：1人当たりの面積							1 m ² /人	
番号	名称	面積 (m ²)	タワー高さ (m)	避難場所近隣の津波高 (T.P.) MAGIS 計測値	想定人数 (人)	避難可能人数 (人)	想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	津波避難タワー設計の手引き (H24.9高知県) に準拠しているか	備考
(例)	〇〇津波避難タワー①	300	20	12	200	300	妥当	○	
1									
2									
3									
合計									

■記入方法

地域津波避難計画書ごとに記入してください。

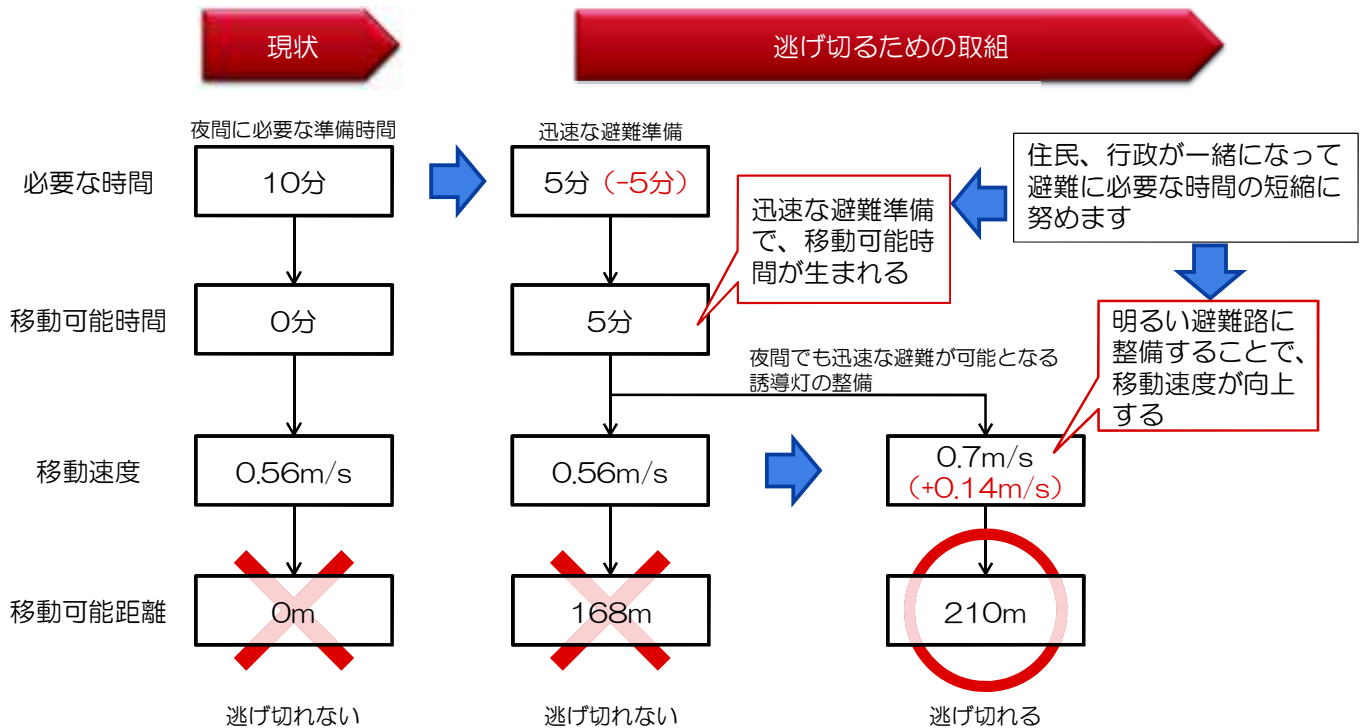


避難困難地域のチェックシートについて

Q. 避難困難地域のチェックで「逃げられないおそれがある地域」がある場合、どのように対応したらよいでしょうか。

A. 最終的には、全ての地域においてStep3の想定で逃げ切れるようにすることが望まれますが、地形や津波の浸水状況によっては、対策が難しいことも想定されます。この場合には、住民とどのような対策がとれるかをしっかりと話し合い、訓練も繰り返しながら、現実的に可能な避難方法を検討します。

例えば、津波浸水予測時間が10分、避難場所までの距離が200mの地域では・・・



津波避難場所・避難経路の安全性チェック

安全に避難するために、地域の現状と対策が必要な箇所を確認しましょう



津波避難場所・避難経路の安全性を高めるために

現地で確認する時、準備する物

- 地区の地図（縮尺1:2,500～1:1000程度、A2～A4サイズ程度）
- 画板 デジタルカメラ 4色ペン（赤・青・緑・黒）
- チェックリスト 津波防災マップ 巻尺



■避難経路チェックリスト【記入例】

地区名	△△地区		
津波避難場所名	〇〇津波避難場所	路線名	〇〇1号避難路、2号避難路
該当する自主防災組織名	〇〇自主防災会、△△自主防災会		
点検者	堀田 郷司	実施日	平成〇年〇月〇日（木）

■避難経路のチェック

確認項目	現状	対策が必要な箇所		
経路を誘導する目印は十分か	○誘導灯（3）基 ○誘導標識（1）基 ○その他（ ）	○誘導灯（3）基 ○誘導標識（2）基 ○その他（ ）		
最も狭い地点の道路幅は	（2）m			
避難の妨げとなるもの	危険なブロック塀	—	○1m以上の余裕幅がない箇所（3）箇所 P.13参照	
	古い家屋	○	○旧耐震基準（2）軒 →うち空家（1）軒	○1m以上の余裕幅がない箇所（1）箇所 P.13参照
	橋梁	□	○橋梁数（3）橋 （橋長2m以上 ボックスカルバート除く）	○耐震未対策の橋梁（1）橋 P.14参照
	危険な水路	—	○転落のおそれ（深さ1m以上）（2）箇所	○防護柵設置（2）箇所 ○LED照明（1）基
	交通量の多い道路との交差点	×	○渋滞のおそれ（2）箇所	
	急傾斜地	○	○箇所数（0）箇所	○未対策箇所数（0）箇所
	要配慮者を介助した場合の避難の妨げとなるもの	△	○急な坂路（1）箇所 ○階段（0）箇所	
その他（老木等の支障物、2m以下の橋等）	×	老木：1箇所 電柱：1箇所		
閉塞した場合は、他に経路があるか	○代替経路（有・無）			

■総評を記入










対策が必要な箇所は、経路の誘導、耐震未対策の橋梁、転落のおそれのある水路である。
 ブロック塀、家屋の倒壊により避難の妨げとなる箇所がある。
 閉塞した場合の迂回路があり、事前に経路の確認を要する。
 交通量の多い道路の交差点、急な坂道において、避難速度が低下することを想定しておく必要がある。

地区名：

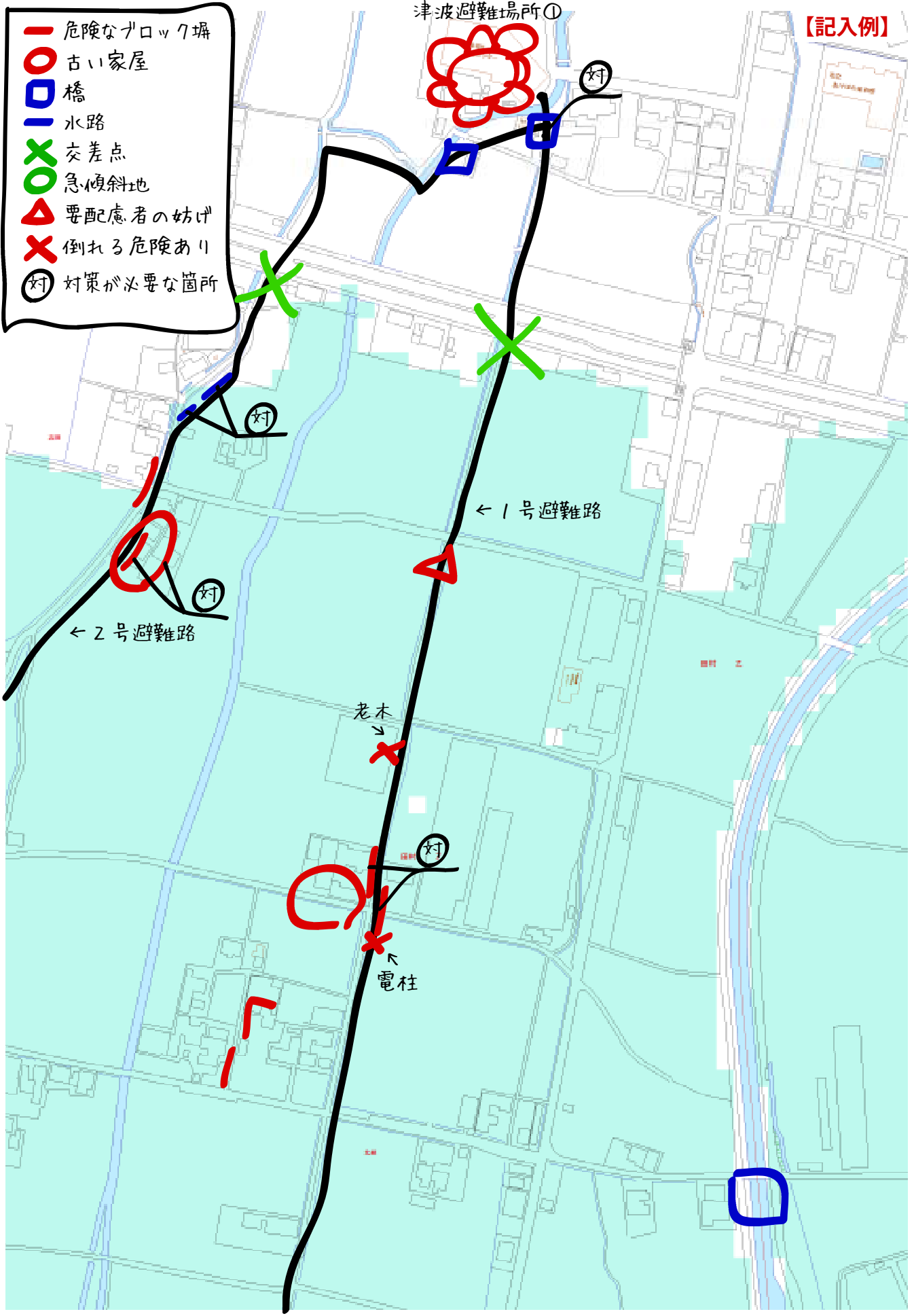
△△地区

路線名：

〇〇1号避難路、2号避難路

-  危険なブロック塀
-  古い家屋
-  橋
-  水路
-  交差点
-  急傾斜地
-  要配慮者の妨げ
-  倒れる危険あり
-  対策が必要な箇所

【記入例】



【記入例】

津波避難場所チェックリスト（自然地形の高台）

地区名	△△地区	津波避難場所名	〇〇津波避難場所
該当する自主防災組織名	〇〇自主防災会、△△自主防災会		
点検者	堀田 郷司	実施日	平成〇年〇月〇日（木）

■津波避難場所について

確認項目	現状	要対策
津波避難場所の標高（m）	23.2	
収容人数（人）	300	
面積（m ² ）	300	
想定避難人数（人）	200	
想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	妥当	
現況の土地利用状況	広場	
見通しの良さ	良	
急傾斜地等の危険箇所があるか	有	急傾斜地が近接、一部に対策工あり
防災倉庫の有無	有	
風雨をしのぐ施設があるか	無	
トイレはあるか	無	
草刈り等の定期的な維持管理が必要か	無	

■総評を記入

想定人数に対して十分な余裕がある。
急傾斜地が近接しているため、対策工の全面など、安全度が高い場所を事前に確認する必要がある。
防災倉庫に、テント・シート、非常用トイレなどの備品を備えることについて検討を要する。

【記入例】

津波避難場所チェックリスト（津波避難ビル等の避難施設）

地区名	△△地区	津波避難場所名	〇〇津波避難場所
該当する自主防災組織名	〇〇自主防災会、△△自主防災会		
点検者	堀田 郷司	実施日	平成〇年〇月〇日（木）

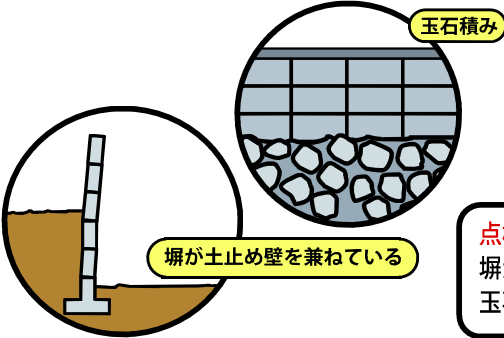
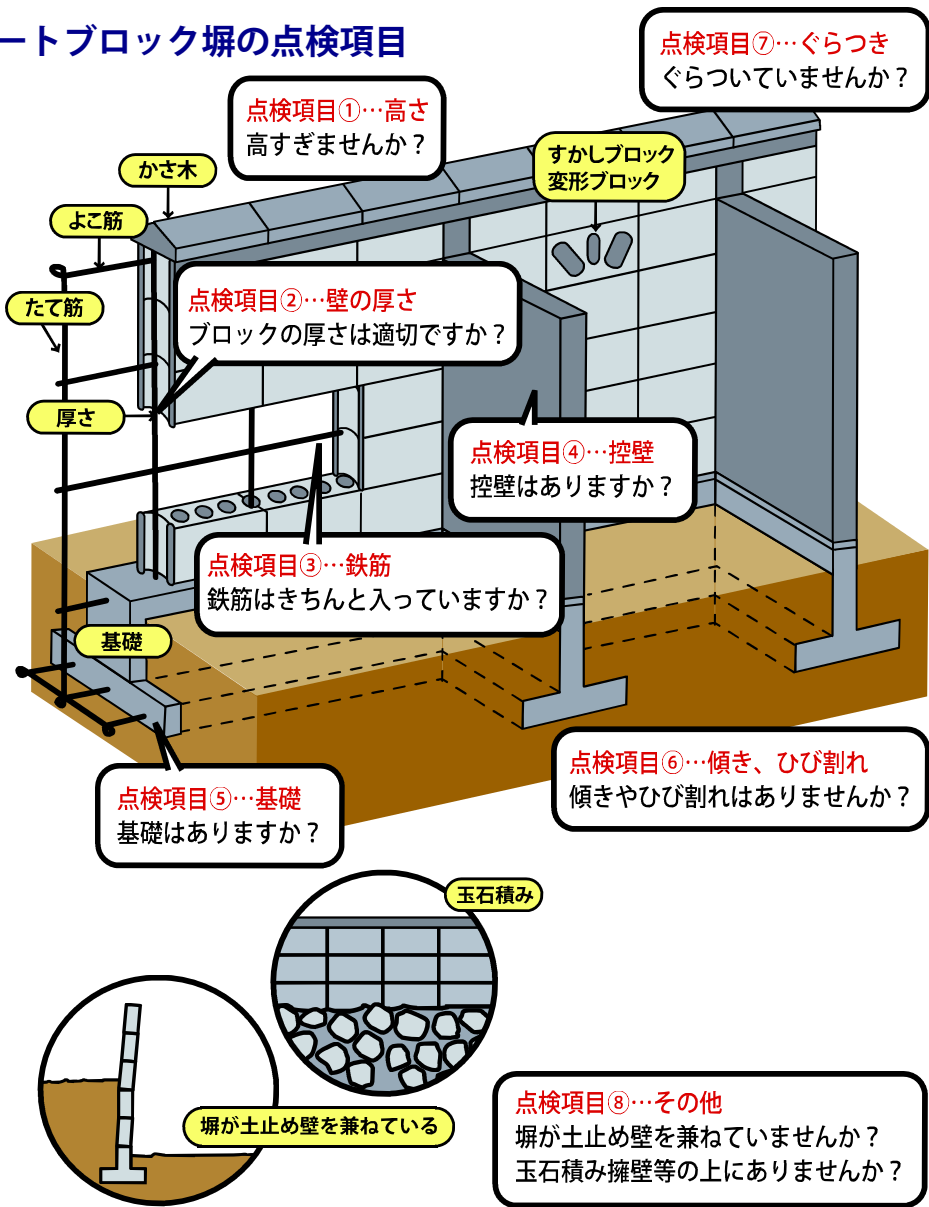
■津波避難場所について

確認項目	現状	要対策
津波避難場所の標高（m）	23.2	
収容人数（人）	300	
面積（m ² ）	300	
想定避難人数（人）	200	
想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	妥当	
出入口は夜間でも簡単に入れるか	可	
使用上のルールを策定し周知されているか	有	ルールはあるが、周知不足 今後、避難訓練等で周知が必要
防災倉庫の有無	有	
風雨をしのぐ施設があるか	無	
トイレはあるか	無	

■総評を記入

想定人数に対して十分な余裕がある。
使用上のルールについて、今後の訓練などを通じて周知を図る必要がある。
屋上避難時の雨風をしのぐ対策、非常用トイレなどの備品について検討を要する。

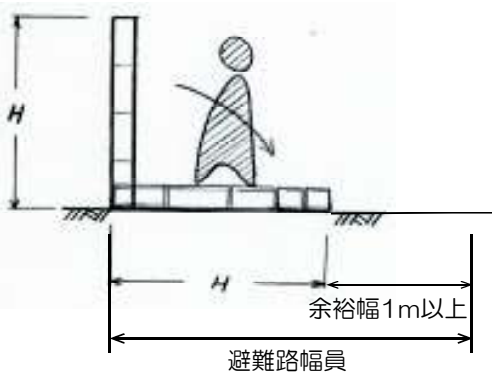

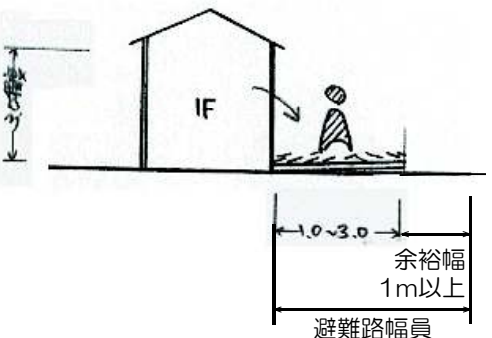

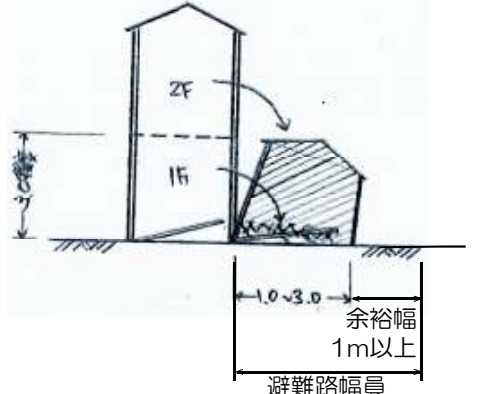

■コンクリートブロック塀の点検項目



	点検項目	点検内容	点検結果	
			適合	不適合
1	高さ	2.2m 以下	はい	いいえ
2	壁の厚さ	高さ 2m を超える塀で 15cm 以上	はい	いいえ
		高さ 2m 以下の塀で 10cm 以上	はい	いいえ
3	鉄筋	壁頂、基礎には横に、壁の端部及び隅角部には縦に、それぞれ径 9mm 以上の鉄筋が入っている	はい	いいえ
		壁内に径 9mm 以上の鉄筋が縦横 80cm 以内で入っている	はい	いいえ
4	控壁 (高さが 1.2m を超える塀の場合)	3.4m 以内ごとに、鉄筋が入った控壁が塀の高さの 1/5 以上突出してある	はい	いいえ
5	基礎	丈が 35cm 以上で根入れ深さが 30cm 以上の鉄筋コンクリート造の基礎がある	はい	いいえ
6	傾き、ひび割れ	全体的に傾いていない、又は 1mm 以上のひび割れがない	はい	いいえ
7	ぐらつき	人の力でぐらつかない	はい	いいえ
8	その他	塀が土止め壁を兼ねていない、又は玉石積み擁壁等の上でない	はい	いいえ

出典：高知県 土木部 建築指導課・住宅課

■ブロック塀や建物倒壊により想定される避難路の閉塞状況

項目	模式図	参考事例
ブロック塀		
新耐震以前の建物	<p>平屋建て</p> 	
	<p>2階建て</p> 	

出典：漁村における津波対策基本方針
 (高知県 水産振興部 漁港漁場課 平成17年3月)

■避難路の橋梁調査【記入例】

地区名	△△地区	
津波避難場所名	〇〇津波避難場所	路線名
該当する自主防災組織名		〇〇号避難路、2号避難路
点検者	〇〇自主防災会、△△自主防災会	
	実施日	平成〇年〇月〇日(木)

橋梁名	架設年度	管理者	橋長 (m)	幅員 (m)	径間数	落橋防止システム			下部工	変状の有無	評価
						桁かかり長	落橋防止装置	横変位拘束			
〇〇橋	昭和50年9月	〇〇市	70	5.5	6	橋座幅幅有り	チェーン有り	不要	コンクリート巻立	無し	耐震補強が実施されており、変状も見られないことから、耐震性を有している。
△△橋	平成12年3月	高知県	30	11	1	OK	チェーン有り	不要	—	無し	平成8年12月以降の竣工であり、耐震性を有している。
××橋	平成9年3月	〇〇市	20	8.5	1	未確認	無し	無し	無し	無し	設計図書等の確認を要する。 (道示、耐震設計の適用等)
床版橋 (無名)	不明	〇〇市	3	3	1	不明	無し	無し	—	無し	耐震性は明らかではない。軽微な支障となく得ることを想定する。

■記入方法

平成8年12月(道路橋示方書改訂)以降に設計した橋は、基本的に耐震性有りと判断する。
平成8年12月以前に設計された橋は、②～⑤に着目して耐震対策施工の有無を現地確認するか、橋梁台帳、設計図書等によって机上で確認する。

■現地確認のポイント

①親柱や橋台付近の桁側面にある橋名板・橋歴板を確認する



橋名板



橋歴板

②橋座幅の確認(可能な場合のみ)
橋座幅幅工の有無



③落橋防止装置の有無

チェーンによる連結、桁と桁をケーブルで連結



④変位制限構造(上部構造の前後・横方向への変位を制限)



⑤橋脚巻立て(コンクリート、鋼板等)の有無



実践的な 避難訓練の実施

津波からの避難は、時間との闘いです。避難の遅れにつながる個別の要因を想定した実践的な訓練により避難時間の短縮に取り組みましょう。



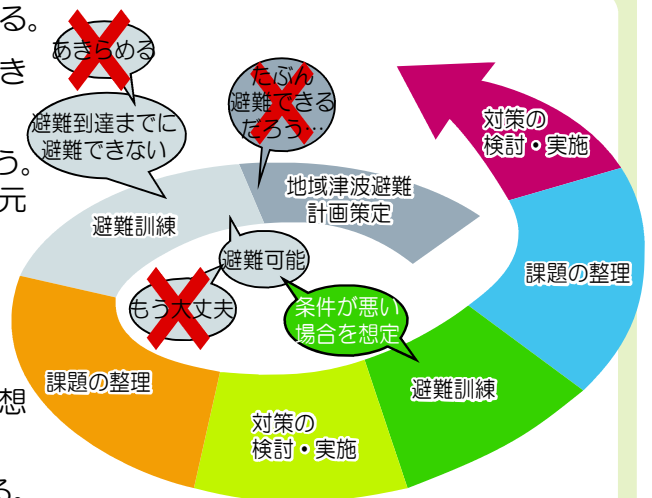
避難訓練を継続して行うことが一番重要

津波からの避難は、一刻も早く高いところへ避難するということが重要です。

このため、津波避難場所や避難路を整備するとともに、住民参加で計画を策定し、確実に逃げ切れるための取組を進めています。しかしながら、計画を作るだけでは、津波から逃げ切れることはできません。確実に避難するためには、住民一人ひとりの迅速な避難行動が不可欠です。

いざという時、素早い避難を行うためには、日頃からの避難訓練が欠かせません。定期的に訓練を行い、明らかとなった課題の解決に向けて、個人、地域、そして行政が取り組みを継続することで、確実な避難を目指します。

- ①地域住民が主体となり、地域津波避難計画を策定する。
- ②実際に避難訓練を行うことで、計画どおりに避難できるか確認する。
- ③少しでも早く避難できるよう、事前の準備や対策を行う。
 自助(個人)：室内の安全対策、靴・懐中電灯を枕元に常備等
 共助(地域)：夜間訓練の実施等
 公助(行政)：避難路整備工事、誘導灯の設置等
 必要に応じて地域津波避難計画の見直しを行う。
- ④夜間や雨天など、避難するための条件が悪い状態も想定して、避難訓練を行う。
- ⑤地域の事業所・学校等と連携して活動の幅を広げる。



激しい揺れのあとは、このような状況が想定されます



道路の不陸



ブロック塀の倒壊による道路閉塞



古い家屋の倒壊



道路の崩壊



液状化によるマンホールの浮き上がり

■自主防災組織での確認リスト【記入例】

今日は 平成25年9月1日 日曜日	本日のリーダーは 〇〇自主防災会リーダー 有光 です。		
午前・午後 9時から始めました。	今日の参加人数は 42名です。		
今日の活動内容	タイムトライアルの結果		
合同避難訓練 ・避難訓練 ・炊き出し ・起震車体験 ・初期消火訓練 ・応急措置講習会 ・講演会	揺れの 時間	揺れがおさ まって家を 出るまで	避難場所を 上がりきる まで
	3分	5分	22分
気づいたこと	時間短縮のための課題		
・避難場所への上がり口で混雑した ・避難場所について人が、その場 とまったので、これから上がる人 が上がれなくなった。	・避難場所への入口が他にもないか確認 ・避難場所に着いても次に上がってくる人 のことを考えて奥へ行く		

■個人の確認リスト【記入例】

	氏名	年齢	性別	避難にかかった 時間(分)	コメント等
1	〇〇 〇〇	10	女	15	
2	〇〇 〇〇	40	男	15	
3	〇〇 〇〇	62	男	15	
4	〇〇 〇〇	32	女	16	
5	〇〇 〇〇	47	男	17	
6	〇〇 〇〇	58	女	18	
7	〇〇 〇〇	71	女	20	
8	〇〇 〇〇	81	女	20	
9	〇〇 〇〇	78	男	20	
10	〇〇 〇〇	66	男	20	
11	〇〇 〇〇	53	男	22	経路途中に倒れそうなブロックがあった
12	〇〇 〇〇	55	女	23	
13	〇〇 〇〇	44	女	24	
14	〇〇 〇〇	7	男	24	
15	〇〇 〇〇	8	男	24	
16	〇〇 〇〇	35	女	24	
17	〇〇 〇〇	69	男	25	
18	〇〇 〇〇	27	男	25	
19	〇〇 〇〇	27	男	25	
20	〇〇 〇〇	31	女	26	
21	〇〇 〇〇	6	男	27	
22	〇〇 〇〇	67	男	28	
23	〇〇 〇〇	69	女	29	
24	〇〇 〇〇	44	女	30	避難路の坂を上るのに時間がかかった
25	〇〇 〇〇	80	女	30	”

■私の津波避難チェックシート

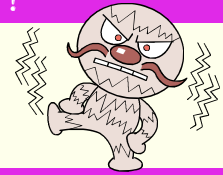


私は津波から逃げ切れるだろうか

やってみよう!

住んでいる地域で想定される地震・津波を知っていますか？

- Q1. 想定震度を知っていますか。
- Q2. 津波浸水予測時間を知っていますか。
- Q3. 津波による想定浸水域、浸水深を知っていますか。



地震が襲ってきた場面を想像してください。

- Q4. 緊急地震速報のブザー音が鳴りました。いざというときの行動を考えていますか。
- Q5. 震度 6 以上の強い揺れを体験したことがありますか。

その揺れが3分続くとしたら・・・



- Q6. 自宅の耐震性は十分ですか。
- Q7. 家具の転倒、窓ガラスの飛散など室内の対策を行っていますか。

強い揺れがおさまりました。
立ち上がることはできますが、家財等が散乱しています。

- Q8. 非常持ち出し品は準備していますか。
- Q9. くつを履くことができますか
- Q10. ドアが開きません。脱出する方法はありますか。

少しでも早く、できるだけ高いところへ逃げましょう。

- Q11. 複数の目標地点が頭に浮かびますか。
- Q12. 家にいる時や職場にいる時等も想定して津波避難場所と避難経路は決めていますか。
- Q13. 自分たちが決めた津波避難場所の現地を確認したことはありますか。
- Q14. 周りの人がまだ避難していなくても、率先して避難することができますか。
- Q15. 経路を倒壊した建物等がふさいでいます。火災が発生している場所もあります。迂回路はありますか。

■順調に避難できたら・・・

揺れの
継続時間 + 揺れがおさまって
家を出るまで + 津波避難場所へ
上がりきるまで = 分

■最悪の状況（夜間、道がふさがった等）を想定したら・・・

3分 + 分 + 分 = 分

地震はいつ起こるか
わからない。
いろいろな条件を
想定してみるのじゃ！



津波避難場所にたどり着くことができました。

- Q16. 津波避難場所では長時間にわたって滞在する備えはありますか。
(水分・食料の確保、風雨・暑さ・寒さ対策)
- Q17. 家族との安否確認方法は決めていますか。
- Q18. 想定されている津波浸水予測時間より早く避難することが可能ですか。

津波から確実に命を守るためには、
一人ひとりが避難を真剣に考え、行動することが必要です

■取組事例

計画に基づく訓練と課題の共有



図上訓練



現地確認



課題の共有

夜間訓練の実施



PTA と連携した防災訓練



防災運動会



橋梁対策



避難が集中する橋梁の耐震補強の実施

避難路整備



自主防災組織・地権者・行政等の協働による避難路の整備

落石対策



避難経路や避難場所背後の危険な斜面の安全対策

ブロック塀対策



危険なブロック塀を生け垣や柵に変更し被害を未然に防止

誘導灯整備



夜間の避難対策と通行者等への周知にも効果を発揮している

津波避難ビル等の整備



津波避難ビル指定や避難困難地域への避難タワーの設置

実践的な避難訓練を繰り返すとともに、必要に応じて計画の見直しも行い確実に命を守る取組を進めています。

図上点検実習用チェックリスト（記入用）

地域津波避難計画チェックリスト (図上点検編)

確認する地域津波避難計画書名		作成日	
自主防災組織名			
点検者		実施日	
項目	必要な内容	チェック	コメント等
住民の参画	① 地域津波避難計画は住民の参画により策定されたか (回数、参加者数、年齢層等)		
	② 地域津波避難計画を広く住民に説明する機会は設けられているか (回数、ワークショップ参加者以外への説明等)		
	③ 地域津波避難計画は、住民に配布されているか		
	④ 策定した地域津波避難計画に基づく避難訓練を実施しているか。(計画通り避難できるか等の現地確認)		
計画書の確認	⑤ 避難対象地域の人口が把握されているか		
	⑥ 観光客や通行人等の想定がされているか		
	⑦ 揺れによる被災状況が想定されているか		
	⑧ 地域における津波浸水の特性が把握されているか		
	⑨ 現地調査や地域住民からの情報等により、地域の現状が把握されているか		
	⑩ 避難の際の移動手段について検討されているか		
	⑪ 津波避難場所・避難経路の選定にあたって、住民の意向が反映されているか。(住民が集中する経路、使用しない経路等)		
	⑫ 津波浸水予測時間までに、避難場所に到達することができるか		
	⑬ 津波避難場所の広さは、想定人数に対して十分か		
	⑭ 津波避難場所・避難経路の安全性が検討されているか		
	⑮ 津波避難場所での避難環境(トイレ、風雨等)について検討されているか		
	⑯ 避難誘導、標識や声掛けの仕組みなどが検討されているか		
	⑰ 夜間に避難するための対策が検討されているか		
	⑱ 孤立した場合の情報入手や連絡方法が検討されているか		
	⑲ 要配慮者(避難行動要支援者)の支援が検討されているか		
	⑳ 情報伝達方法について検討されているか(住民への伝達方法の多重性、確実性等について)		
	㉑ 病院、要配慮者施設、大型商業施設等の津波避難計画を把握しているか		
	㉒ 継続的な避難訓練から抽出された課題を改善していく仕組みがあるか		
津波防災マップの確認	㉓ 分かりやすい表記(縮尺、文字サイズ、着色等)がされているか		
	㉔ 津波浸水予測図等重要な基礎資料が最新版を誤りなく使用されているか		
	㉕ 避難の必要な地域が分かりやすく表示されているか		
	㉖ → 基盤地図は何を使用しているか下記より選択 □航空写真 □都市計画図 □その他(住宅地図等)		
	㉗ → 浸水想定はどのように表示をしているか、下記より選択 □到達時間で着色 □浸水深で着色 □その他(同一色で着色)		
	㉘ 避難場所の表示(名称・マーク等)はあるか		
	㉙ 主な避難経路の表示はあるか		
	㉚ 主要な地点(避難場所、交差点等)の地盤高が表示されているか		
	㉛ 避難の目印となるランドマークが表示されているか		
	㉜ 橋梁や土砂災害等の危険箇所情報が表示されているか		
総評			

避難困難地域のチェックシート①

(収容人数に余裕がある高台避難場所等の場合)

実施日	
点検者	

地区名		津波避難場所名	
-----	--	---------	--

■移動可能範囲の算定		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
最短時間のとり方 ^{※1} ()		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	()	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	()	()	()	()
移動可能時間	C (分) = B-A	()	()	()	()
歩行速度	V (m/秒)	()	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C×V×60	()	()	()	()
移動可能範囲の円 ^{※2}	R (m) = L/1.5	()	()	()	()
	評価	()	()	()	()

■移動可能範囲の算定		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
最短時間のとり方 ^{※1} ()		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	()	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	()	()	()	()
移動可能時間	C (分) = B-A	()	()	()	()
歩行速度	V (m/秒)	()	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C×V×60	()	()	()	()
移動可能範囲の円 ^{※2}	R (m) = L/1.5	()	()	()	()
	評価	()	()	()	()

■移動可能範囲の算定		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
最短時間のとり方 ^{※1} ()		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	()	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	()	()	()	()
移動可能時間	C (分) = B-A	()	()	()	()
歩行速度	V (m/秒)	()	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C×V×60	()	()	()	()
移動可能範囲の円 ^{※2}	R (m) = L/1.5	()	()	()	()
	評価	()	()	()	()

※1 最短時間のとり方 (①～③のいずれのチェックでも可能)

		読み取り値	採用値
①マップ単位 (広域的に設定)	津波浸水予測時間図の着色からの読み取り	～ 分	分
②津波避難場所単位 (地区毎に設定)		～ 分	分
③メッシュ単位 (より詳細な設定)	MAGISからの読み取り	分	分

※2 津波避難実態調査による避難距離と直線距離の比

津波を想定した避難路、避難施設の配置及び避難誘導について (第3版) (平成25年4月国土交通省都市局)

達成度

避難困難地域のチェックシート②

(津波避難ビル等の場合)

実施日	
点検者	

地区名		津波避難場所名	
-----	--	---------	--

■移動可能範囲の算定		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
最短時間のとり方 ^{※1} ()		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	()	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	()	()	()	()
高所への避難速度	VH (m/秒)	()	()	()	()
高所への避難時間	D (分)	()	()	()	()
移動可能時間	C (分) = B - A - D	()	()	()	()
歩行速度	V (m/秒)	()	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C × V × 60	()	()	()	()
移動可能範囲の円 ^{※2}	R (m) = L / 1.5	()	()	()	()
	評価	()	()	()	()

■移動可能範囲の算定		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
最短時間のとり方 ^{※1} ()		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	()	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	()	()	()	()
高所への避難速度	VH (m/秒)	()	()	()	()
高所への避難時間	D (分)	()	()	()	()
移動可能時間	C (分) = B - A - D	()	()	()	()
歩行速度	V (m/秒)	()	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C × V × 60	()	()	()	()
移動可能範囲の円 ^{※2}	R (m) = L / 1.5	()	()	()	()
	評価	()	()	()	()

■移動可能範囲の算定		現在の計画	STEP1	STEP2	STEP3
最短時間のとり方 ^{※1} ()		(日中)	日中	夜間	夜間
避難開始までに必要な時間	A (分)	()	5分	10分	10分
津波浸水予測時間	B (分)	()	()	()	()
高所への避難速度	VH (m/秒)	()	()	()	()
高所への避難時間	D (分)	()	()	()	()
移動可能時間	C (分) = B - A - D	()	()	()	()
歩行速度	V (m/秒)	()	0.7m/秒	0.7m/秒	0.56m/秒
移動可能距離	L (m) = C × V × 60	()	()	()	()
移動可能範囲の円 ^{※2}	R (m) = L / 1.5	()	()	()	()
	評価	()	()	()	()

※1 最短時間のとり方 (①～③のいずれのチェックでも可能)

		読み取り値	採用値
①マップ単位 (広域的に設定)	津波浸水予測時間図の着色からの読み取り	～ 分	分
②津波避難場所単位 (地区毎に設定)		～ 分	分
③メッシュ単位 (より詳細な設定)	MAGISからの読み取り	分	分

※2 津波避難実態調査による避難距離と直線距離の比

津波を想定した避難路、避難施設の配置及び避難誘導について (第3版) (平成25年4月国土交通省都市局)

達成度

現地点検用チェックリスト（記入用）

津波避難場所調書

■津波避難場所（自然地形の高台）

地区名	条件設定：1人当たりの面積							m ² /人
番号	名称	面積 (m ²)	避難場所の海拔 (m)	避難場所近隣の津波高 (T.P.) MAGIS 計測値	想定人数 (人)	避難可能人数 (人)	想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	備考
(例)	〇〇津波避難場所	100	15.3	16	50	100	可	
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
合計								

■津波避難場所（津波避難ビル等の避難施設）

地区名	条件設定：1人当たりの面積							m ² /人	
番号	名称	面積 (m ²)	建物階数 (階)	想定人数 (人)	避難可能人数 (人)	津波避難ビル指定	耐震性	想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	備考 (避難可能場所等)
(例)	〇〇津波避難ビル	200	4	300	200	有	有	要検討	屋上に避難
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
合計									

■津波避難場所（津波避難タワー等の避難施設）

地区名	条件設定：1人当たりの面積							m ² /人
番号	名称	面積 (m ²)	タワー高さ (m)	想定人数 (人)	避難可能人数 (人)	想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か	津波避難タワー設計の手引き (H24.9高知県) に準拠しているか	備考
(例)	〇〇津波避難タワー	300	10	200	300	可	○	
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
合計								

避難経路チェックリスト

地区名			
津波避難場所名		路線名	
該当する自主防災組織名			
点検者		実施日	

■避難経路のチェック

確認項目		現状	対策が必要な箇所	
経路を誘導する目印は十分か		○誘導灯 () 基 ○誘導標識 () 基 ○夜間対策済誘導標識 () 基	○誘導灯 () 基 ○誘導標識 () 基 ○夜間対策済誘導標識 () 基	
最も狭い区間の道路幅は		() m		
避難の妨げとなるもの	危険なブロック塀	—	○ () 箇所 別紙チェックポイント	○1m以上の余裕幅がない箇所 () 箇所 P.13参照
	古い家屋	○	○旧耐震基準 () 軒 →うち空家 () 軒	○1m以上の余裕幅がない箇所 () 箇所 P.13参照
	橋梁	□	○橋梁数 () 橋 (橋長2m以上 ボックスカルバート除く)	○耐震未対策の橋梁 () 橋 P.14参照
	危険な水路	—	○転落のおそれ(深さ1m以上) () 箇所	○防護柵設置 () 箇所 ○LED照明 () 基
	交通量の多い道路との 交差点	×	○渋滞のおそれ () 箇所	
	急傾斜地	○	○箇所数 () 箇所	○未対策箇所数 () 箇所
	要配慮者を介助した場合の 避難の妨げとなるもの	△	○急な坂路 () 箇所 ○階段 () 箇所	
	その他(老木等の支障物、 2m以下の橋等)	×		
閉塞した場合は、他に経路があるか			○代替経路(有・無)	

■総評を記入

津波避難場所チェックリスト（自然地形の高台）

地区名		津波避難場所名	
該当する自主防災組織名			
点検者		実施日	

■津波避難場所について

確認項目	現状	要対策
津波避難場所の標高（m）		
収容人数（人）		
面積（m ² ）		
想定避難人数（人）		
想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か		
現況の土地利用状況		
見通しの良さ		
急傾斜地等の危険箇所があるか		
防災倉庫の有無		
風雨をしのぐ施設があるか		
トイレはあるか		
草刈り等の定期的な維持管理が必要か		

■総評を記入

津波避難場所チェックリスト（津波避難ビル等の避難施設）

地区名		津波避難場所名	
該当する自主防災組織名			
点検者		実施日	

■津波避難場所について

確認項目	現状	要対策
津波避難場所の標高（m）		
収容人数（人）		
面積（m ² ）		
想定避難人数（人）		
想定避難人数に対して避難場所の面積は妥当か		
出入口は夜間でも簡単に入れるか		
使用上のルールを策定し周知されているか		
防災倉庫の有無		
風雨をしのぐ施設があるか		
トイレはあるか		

■総評を記入

地区名		路線名	
津波避難場所名			
該当する自主防災組織名			
点検者	実施日		

橋梁名	架設年度	管理者	橋長 (m)	幅員 (m)	径間数	落橋防止システム		下部工 橋脚補強	変状の有無	評価
						桁かかり長	横変位拘束			

記入方法
平成8年12月（道路橋示方書改訂）以降に設計した橋は、基本的に耐震性有りと判断する。
平成8年12月以前に設計された橋は、②～⑤に着目して耐震対策施工の有無を現地確認するか、
橋梁台帳、設計図書等によって机上で確認する。

現地確認のポイント

- ①親柱や橋台付近の桁側面にある橋名板・橋歴板を確認する



橋名板



橋歴板

- ②橋座幅の確認（可能な場合のみ）
橋座拡幅工の有無



既設の桁受けに新たに拡幅したも

- ③橋脚巻立て（コンクリート、鋼板等）の有無



- ④落橋防止装置の有無
チェーンによる連結、桁と桁をケーブルで連結



- ⑤変位制限構造（上部構造の前後・横方向への変位を制限）

